貧困解決へ大同団結

全国の生活苦にあえぐ人びとよ、一緒に声を上げよう――。フリーターや野宿者、シングルマザー、障害者、消費者金融の被害者など、くらしに困難を抱える人たちと、彼らを支援する団体が一堂に会する初めての集会が24日、東京で開かれた。不安定雇用が広がりワーキングプア（働く貧困層）が増える一方で、福祉は削られる。手を拱ないと問題が解決されないという危機感が背景にある。（河川卓史、竹信三恵子）

初の統一集会 東京で

広がる貧困について話し合う集会に大勢の聴衆が集まった＝24日午後、東京都渋谷区神宮前で、戸村登撮影

時時刻刻

1食200円 給料残らず ■ 就職も福祉も門前払い

隠れた実態 告発相次ぐ

団体ごとの活動に限界

集会の実行委員35人はそれぞれ、福祉、労働、女性の分野で活動する＝表。彼らが連帯しようとするのは、個別の活動では限界があるからだ。

ヤミ金融問題に取り組む猪股正弁護士は「過酷な取り立てをとめるだけでは対症療法」と話す。

「1食200円以下に削って働いたが、年越しの生活費が同居の友人と2人で3千円しか残らなかった」（フリーターの30代男性）。「子どもの保育費を滞納し、卒園証書を1人だけ渡してもらえなかった」（ヤミ金融被害の30代女性）。「病名をだしたら就職の面接すら受けられないのに『歩けるでしょう』と福祉の対象にもならない」（難病の人の団体代表）

24日の「もうガマンできない―広がる貧困／人間らしい生活と労働の保障を求める3・24東京集会」では、当事者からの痛切な告発が相次いだ。約420人の聴衆が会場を埋め、車いすの障害者や路上のテントで暮らす人の姿もあった。

集会の狙いの一つは、「社会から隠された貧困」が見えるよう当事者が声をあげること。実行委員長で多重債務問題などにかかわってきた宇都宮健児弁護士は「貧困の広がりは社会を崩壊に導く。まず実態を直視する必要がある」と語った。

集会は貧困対策や、労働の規制緩和のとりやめを国に求め、この日のネットワークを広げていくことの宣言を採択した。

民間支援団体の調査では、被害相談をした人の3分の1が再び借り入れに走る。低収入で不安定な仕事しかないのに生活保護が受けにくいためだ。「労働問題と社会保障に同時に取り組まない限り、ヤミ金融に苦しむ人は後を絶たない」

野宿者の支援をする「もやい」の湯浅誠事務局長も「家賃が払えずネットカフェで暮らすといった隠れた貧困があり、色々な問題が1人の人間に折り重なっている」という。生活保護申請などで当面はしのいでも、働いても低賃金でまともな生活ができない根本問題は手つかずだ。

では労働運動はというと、首都圏青年ユニオンの河添誠さんは「労使交渉も貧困が壁」という。

同ユニオンに高校生から相談電話がきた。母は一人親で低収入。アルバイトで学資を稼いできたが解雇された。「組合員になって交渉しよう」と言ったら「組合費を払うお金があったらお母さんにあげる」。労使交渉に行く交通費500円が出せない若者もいる。今、お金がない人には労組だけでは対応できない。

障害者問題に取り組むDPI日本会議議長の三沢了さんも「重い障害者に生活保護は命綱だが、母子加算廃止の流れを見ると、障害者加算も切り下げられかねない。多くの人と共闘しないと」と危機感をつのらせる。

集会の熱気を通じて見えてきたもうひとつの共通課題は、「自己責任論」を当事者も含めて解決が難しくなることだ。

DV（ドメスティック・バイオレンス）で離婚しても「離婚した自分が悪い」。病気で失業しても「病気になった自分が悪い」。「自分を責めて声を上げられない。互いに交流して実情が見え始めると、安全ネットが機能していないことが問題とわかってくる」と、一人親の自助グループ「しんぐるまざぁず・ふぉーらむ」の赤石千衣子さんはいう。

記長は「正社員、フリーター、派遣と立場の違う人がデモに集まったが、プレカリアートという言葉が旗印になった。先が見えない不安さに悩む点は共通しているからだ。

実行委員で、若者の生きづらさや自殺の問題に向き合ってきたフリーター経験のある作家、雨宮処凛さんもこの言葉に「突破口を見つけた」という。「弟の一人は過労死しかけ、下の弟はフリーターで国民健康保険料が払えず『医療難民』になりかけた。今の日本で安心して働ける人は超一部しかいない」と雨宮さん。今度の集会は「現代の米騒動です」という。

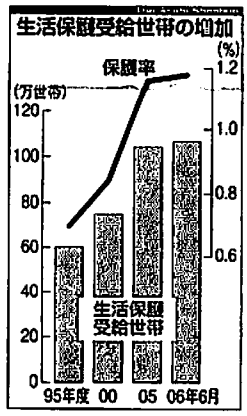
アジア女性資料センター	女性運動支援
首都圏青年ユニオン	労働組合
自立生活サポートセンター・もやい	ホームレス支援
しんぐるまざぁず・ふぉーらむ	当事者中心の母子家庭支援
全国クレジット・サラ金問題対策協議会	クレジット、消費者金融問題に取り組む弁護士、被害者の会などで交流、支援組織
全国公的扶助研究会	ケースワーカーらによる生活保護制度の研究会
全国生活保護裁判連絡会	生活保護にかかわる裁判の支援
DPI日本会議	障害者の当事者団体
派遣労働ネットワーク	派遣労働者支援
ホームレス総合相談ネットワーク	ホームレスの法律相談
連合	労働組合（ナショナルセンター）

■実行委員が所属する団体の例（50音順）■

先見えぬ不安 連帯の旗印に

ここ数年の景気回復の一方で、生活保護の受給は06年6月で106万世帯に達した＝グラフ。都留文科大の後藤道夫教授の推計によると、働いているが求職中で収入が生活保護水準に満たない「ワーキングプア世帯」は、02年までの5年間で140万世帯以上増え650万世帯に。「社会保障が弱いまま安定雇用が崩れたことが、急増の原因」と後藤教授はみる。

「プレカリアート＝キーワード＝という言葉が広がっている。昨年4月、フリーター全般労組などが東京で行ったメーデーデモの呼びかけ文に登場。同労組の山口案明書記長は「正社員、フリーター、派遣と立場の違う人がデモに集まったが、プレカリアートという言葉が旗印になった。先が見えない不安さに悩む点は共通しているからだ。



実行委員で、若者の生きづらさや自殺の問題に向き合ってきたフリーター経験のある作家、雨宮処凛さんもこの言葉に「突破口を見つけた」という。「弟の一人は過労死しかけ、下の弟はフリーターで国民健康保険料が払えず『医療難民』になりかけた。今の日本で安心して働ける人は超一部しかいない」と雨宮さん。今度の集会は「現代の米騒動です」という。

プレカリアート　イタリア語のプレカリオ（不安定な）から派生した言葉で「不安定な雇用を強いられた人々」の意味。イタリアで路上に落書きされたのが始まりという。伊藤公雄京大教授によると、欧州でもグローバル化で不安定雇用が増えるなか、こうした働き方の人々が自らを表現する言葉として普及。昨年、フランスで若者が労働政策をめぐり大デモを繰り広げたときも登場した。

無料のスポーツ総合誌

テレビのスポーツキャスターからノンフィクション作家に転身した。今度は無料雑誌の編集長だ。「おもしろいことはいろいろやりましたが、採算を気にしない雑誌を作ることはなかなかない」。企業3社と1財団が代表理事として取り組む日本スポーツ学会の活動がきっかけだった。サッカーの川淵三郎氏や柔道の山下泰裕氏らの鼎談を多くの人に聞かせたいと思った。

「様々な問題が噴き出す時代。みんなが泣いたり笑ったりできるスポーツに、気持ちを浄化され、助けられる時代なんです」

文　竹園隆浩
写真　戸村登

朝日新聞 20

薬などの生態系、水質、大気などの影響を調べる。業者選定の入札は今月28日に行う。

政府は当初、正式なアセスを検討していたが、名護市が1月、政府の代替施設計画の修正案を示

を図るために設立され、自らでなければ受け止めてもらえない」。企業3社と1財団の協賛を得て創刊した。「日本の女性はなぜ強いのか」を特集した昨年11月の第1号は東大、早大など約50の大学で約5万部を配った。反響は大き

にも関議決定する政府の骨太方針2007に、会議の設置が明記される。

会議の設置は、シンドラー社製エレベーターの不具合や、パロマ工業製ガス湯沸かし器の一酸化炭素中毒事故など、情報

団連、金融機関などの代表で構成。不祥事が起きた際の企業の対応を監視・評価して、情報開示を促すとともに、社会的責任を果たしている企業に投資資金が集まりやすくなる政策を検討し、政府

時事メモ

岡山県警は26日、岡市の商業ビル「西松丸亀町壱番街」。51分、同ビル内の診療で大野元防衛庁長官ら。57分、同ビル内のホールで西松丸亀町商店街振興組合の理事らと意見交換会。1時30分、同商店街視察。3時8分、岡山市の岡山県総合福祉・ボランティ

4分、岡市のホテルクラヴィア岡山。53分、同ホテル内で岡山県政記者クラブのインタビュー。5時13分、岡山駅。17分、のぞみ72号で同駅発。8時48分、東京駅。9時7分、東京・西新宿のヒルトン東京内の「村橋勝盛塾」で勉強。10時48分、東京・宮ケ谷の自宅。